

令和2年度「安房の国観光まちづくり塾」講義概要

テーマ「ポスト・コロナのツーリズム ー新しい観光の地平ー」

第1回：“房総の優位性はどこに” 10月2日(金)

(1)「房総の観光潜在力」 倉林 眞砂斗 副学長

東京ー千葉、江戸ー上総・下総・安房という空間的な位置関係をふまえると、人の往来に関する房総の特性、ひいては「これから」を考える上で押さえておきたい“潜在力”が垣間見えてきます。近未来的な“旅”をイメージしながら、新たな価値創りについて考えていきます。

(2)「首都近郊という空間価値 ー英国の事例ー」 石谷 昌司 准教授

今回は、イギリスをテーマに首都近郊の観光のあり方について皆さんとともに考えていきます。具体的には、首都ロンドンから南西約100-200km圏内の地域（バース、コッツウォルズ、オックスフォードなど）に焦点を当て、昨年度大学で実施したイギリス研修にも触れながら週末観光の魅力についてご紹介します。

第2回：“マイクロツーリズム

ー楽しく地元・地域で過ごすスタイルー” 10月22日(木)

(1)「学生の地域連携活動

ー観光学部学生による地域の魅力を活かす活動ー」 内山 達也 准教授

「with コロナ」を意識した観光のあり方や、身近な地域の魅力を活かす取り組みについて考えていきます。鴨川キャンパスで学ぶ学生たちが地域の魅力を活かす活動に取り組んできました。その概要をご紹介するとともに、これからの観光のあり方について考えていきます。

(2)「観光業の一步手前から考える『観光』のあり方

ーZ世代を地方都市に惹き寄せる地域連携活動ー」 金子 祐介 助教

2020年度はコロナ禍により、観光業は多大なダメージを被りました。一方で、一度立ち止まって「これからの観光のあり方」について考える機会とも言えるかもしれません。

そこで、本講座では、これからの社会を担う若者世代が「どんな観光をしてみたいと思っているのか？」ということについて、学生の「観光とは一見関係のないようにもみえる興味関心」などと紐付けてご紹介します。

第3回：“コロナの先を見据えて” 11月12日(木)

(1) 「新型コロナを乗り越える

－再生への模索と新しい観光のあり方－ 佐滝 剛弘 教授

(2) 「一緒に考えよう、ポスト・コロナの房総の観光と暮らし」 佐滝 剛弘 教授

新型コロナウイルスの感染の終息が見えない中、全国各地で観光はもちろんのこと、祭礼や行事・イベントの中止・自粛など、「まち」のなりわいにも大きな影響が出ており、地域の明るい未来が描けない状況です。一方、そんな中でも、「with コロナ」を意識した新しい観光のあり方や地域づくりの模索も始まっています。

まず第1講で「オーバーツーリズム」や「文化財の保全と活用」に詳しい専門家が、最新の観光と地域のありようの変化の兆しを国内外の豊富な事例を挙げて紹介、第2講ではその事例をもとに、引き続き参加する地元の皆さんから、コロナウイルス蔓延後の観光や生活についての具体的な変化を語ってもらいながら、今後への指針を共有できるような議論を行います。

第4回：“危機をチャンスに” 12月4日(金)

(1) 「新型コロナ禍における県内観光の取組みと課題」 岩本 英和 准教授

本講座では、コロナ禍前後の県内観光客数の変化を解説し、新たな観光需要の模索をアンケート調査結果を用いて紹介します。

(2) 「振り返りと今後に向けて 一意見交換」 講師・受講者全員

参加者の皆さんと意見交換ができる場にしたいと考えています。